

短歌 (投稿順)

今日は風昨日は荒波明日は何? 日毎に変わる宝登の雲海 皆野 大澤 貴夫
 日に幾度武甲山の石灰東京へ運ぶ貨物車眺めし生活 皆野 根岸 詩子
 母の日の娘からの花の束開けて亡夫の花瓶にお裾分けする 下田野 新井 節子
 白波の五人衆にはおひねりも伝統守る奉納歌舞伎 皆野 萩原 初恵
 鹿出でし畑には依れず狭庭にトマトは花咲き我のみ待つ 国神 藤原マキ子
 友達も出来たやうなり夏は来ぬ塾のバイトも難関突破と 皆野 引間 万亀
 歳とるを引き算志向で生活す長年の生涯を想ふ此の頃 三沢 新井 叶子
 薔薇咲かせ嫁や姪等に見せくれし娘夫婦の持て成し嬉し 下田野 浅見 豊子
 歳歳の黒ほおずきは紫の花次々と朝の黙に 三沢 新井 民子
 代車とて宛がはれたるレンタカー付きしはなぜか川越ナンパー 皆野 打木 昭廣
 生きたくも生きれなかった人想い何があるうと行けるだけ生く 皆野 林田 凜太
 我が部屋にクーラーなくて図書館で勉強してた都立高時代 上田野 四方田利男
 御開帳三十四番山法師御朱印すませ元氣貰いて 皆野 村田ハツ代
 台風の雨に預ける一日を生きながら予定なき時の豊かさを知る 皆野 太幡琉美花

俳句 榎本順江 選 投稿数 19句

ペランダの巣箱訝る四十雀 国神 鈴木 正文
 (評)巣箱を掛ける恰好の場所が見当たらず仕方なしにペランダに置いたようです。巣箱を見つけた四十雀が遠くから首を傾げて見えています。「はいりたいけどペランダでは」と不審に思いながら様子を伺う鳥、又それを見ている作者どうなることかおもしろい光景、その後が気になる一句です。二句目、田の水漏れを防いだり、苗の発育をよくする為、田を平にして水を張る作業を代掻きと言うのを教えてもらいました。田植えの準備が終わって、張った水面に映った破風山は夕陽に染まり額絵のようです。一仕事終え疲れを忘れさせる景色に佇んでいます。三句目、何とも羨ましい目覚めです。郭公の鳴き声などなかなか聴くことがありませんが近くで鳴いていたんですね。声に誘われて朝の散歩、清々しい一日の始まりです。
 代掻きて逆さ破風山は陽に染まる 皆野 鳥 弘 五月晴れ我が一生も奇跡なり 皆野 櫻井 早苗
 郭公の声に目覚めて出る散歩 国神 藤原マキ子 窓開けてほととぎすの声誘い込む 下田野 浅見 豊子
 萬緑や故郷だんだん遠くなる 皆野 引間 千鶴 目に染みる塩の白さよ鮎を食む 皆野 中田 秀夫
 薔薇便り画面抜け来る薫かな 皆野 悠利 白鷺のゆったりと飛ぶ川の上 下田野 浅見 和雄
 小燕の巣立ちの朝空清し 皆野 村田ハツ代 風渡り一面の紅ポピー咲く 皆野 萩原 初恵
 スカイツリーに千匹の鯉泳ぐ初夏 皆野 根岸 詩子 麦秋や体調管理の日々なりて 三沢 新井 叶子